

## 【理学部】令和6年度 FD活動の「年間報告」

### 1. 学部独自のFD活動についての報告 (\*は必須項目)

#### (1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

##### ①公開授業：

- ・科目 量子力学B
- ・担当教員 山縣淳子 教授
- ・実施日時/場所 令和6年6月12日2時限目／万有館B406教室
- ・\*参加人数 33名（教員31名、事務職員2名）

##### ②ワークショップ：

- ・実施日時/場所※公開授業と日時/場所が異なる場合のみ記載してください
- ・\*参加人数 45名程度（教員31名、事務職員2名、学生10数名：出入りあり）
- ・ワークショップでの意見交換内容

Zoomを活用したハイブリッド形式での授業となっており、学生や他の教員からは「テレビ番組を見ている感覚で授業を受けることができた」「学生が受け身にならないことが良い」などの意見が寄せられた。

#### (2) その他研修会等

※(1)以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

- ・テーマ 「半導体業界に関する勉強会」
  - ・概要  
半導体産業に精通し、業界と以前よりつながりを持つ、有限会社パサパコーポレーション代表取締役社長の河野周啓氏に、半導体業界に関する講演をしていただいた。1時間程度の講演後、質疑応答の時間を設け、半導体業界に関する知識を深めた。
  - ・実施日 令和6年4月24日15:00～16:00
  - ・\*参加人数 12名（教員：12名、職員：0名）
- ・テーマ 「2024年度入学生 入学前教育プログラム」の実施結果報告会
  - ・概要  
教授会の開始に先立ち、2024年度入学生向けの入学前教育プログラムの実施結果について、駿台グループエスエイティーティー株式会社 川邊忍氏にから結果と分析の報告をいただき、今後の入学前教育プログラムの改善に活かすため教員間でも意見を徴収した。
  - ・実施日 令和6年6月19日13:15～13:41
  - ・\*参加人数 33名（教員：33名、職員：2名）

### 2. 総括（今年度の学部FDを通して得られた気づきや見つかった課題等）

公開授業などを通じて得られた気づきとして、やはり少人数教育という理学部の特徴が活かされており、授業に対する満足度が高いことが長所になっているという点がある。コロナ禍で培われたオンライン授業の実施スキルも平時から活かされていると感じる。学習成果実感調査などでも学生の満足度についても、とくに卒業研究に相当する授業科目「特別研究」に対する満足度の高さは特筆すべきものがある（理系学部の一般的な特徴であろう）。教員も多くの時間を4年次生の「特別研究」にかけていることもあり、学生の満足度は、教員が学生にかけた時間にしたがって増えている可能性が高い。しかし一方で、授業に参加する姿勢・意欲が低い学生が学習成果実感調査や公開授業後のワークショップには参加していない可能性があり、そうした学生の状況や意見を反映できるような仕組みづくりが今後の課題である。

### 3. 次年度に向けての取り組み

教員と学生の距離が近く、教員1名あたりの担当学生数が少ない（少人数）教育であることが理学部の大きな長所であり、特徴である。この特徴を活かして、学生と教員がともに学ぶ場（外部講師を招聘したタイムリーな話題提供、および、その背景についての本学教員による事前レクチャーなど）を通じて、学生と教員の一体感の醸成をはかるなど、「学ぶ」ということに対する姿勢をどう伝えるか、といった点についても検討を進めて行く必要がある。またこれと平行して、刻々と変化してゆく社会の潮流をとらえ、社会の付託に応えられるカリキュラム実現を目指した改革についても、不断の努力で取り組まなくてはならないだろう。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。